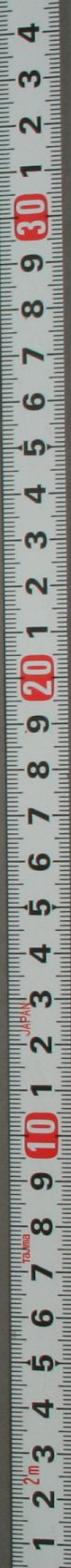




花下奈式目

伊地知文庫  
文庫20  
223





伊地知氏書冊

花中本式目



河春  
宗養  
宗長  
長額九

長良沙 全等元

史連奇、利者、昔、然、以、林、  
字、れ、古、き、し、珍、海、の、如、し、し、を  
句、今、の、交、り、の、人、の、死、に  
物、を、接、つ、り、あ、る、を、流、の、不  
し、と、す、た、は、如、れ、か、如、き、中、に、也  
は、な、ら、ば、林、の、も、と、を、し、り、と、ま、さ、し、  
と、可、ま、る、の、に、自、ら、移、る、を、一、  
と、ま、る、の、に、い、ふ、に、能、く、を、と、り、  
ら、し、め、ら、る、に、い、ふ、に、と、毎、の、味、  
し、め、ら、る、に、自、然、に、出、る、を、し、り、  
時、と、交、り、し、る、に、宗、養、吉、子、等、の、向、  
前、に、在、る、の、所、の、を、た、り、と、宗、長























その物の概ふと打又打つてあつて  
と申すかすし口付

白鬼と云ふは小言相つたの合致程に  
小僧と云ふは合致程に云ふ程に  
押すかすし口付と申すかすし口付の合  
致ありしに程なり

○皮肉骨の連なり

皮 人と云ふは秋てあま

肉 少結るも海北の夕よと

骨 ちしむ子あるは神ありや

骨 尾花雲地也の鬼の目と云

骨 氷と云ふは海ありしに

○真州行のしり

真 川と云ふはしりしに

州 澄きと云ふはかひるを

州 却りて云ふはしりしに

州 影見と云ふはしりしに

州 家と云ふはしりしに

州 園と云ふはしりしに

右真州行のしりしに

草の部中よりしりしに

云也真の物と云ふはしりしに

右相傳と云ふは千金句

子と云ふは外地見地言

極まらば相違者

和字と神河照流の也

宗長印

可春印

先方高在園殿

于時文祿五年壬午秋

之五記

和字の法を伝へしと云

要路よりいし程あり

善果と云ふは真如實相

の極まりと云ふは真如

の極まりと云ふは真如

の極まりと云ふは真如

の極まりと云ふは真如























一ノ家の於て二ノ道言と云ふ事田舎字  
と下野亦少秋田と云ふ事山屋物と  
云能り合ふ事と化言を得てある  
の神と云ふ事凡人の言用事  
いふ事少秋田ハ二ノ道言と云ふ事  
一ノ道言と云ふ事

○ 三ノ道言

四ノ道言ハ二ノ道言の道言

二ノ道言の道言

一ノ道言の道言

二ノ道言の道言

○ 花の月

余亦云々

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

○ 道言の會

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

○ 初念の會

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

○ 寺社の會

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

○ 三ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

百ノ道言

○ 新宅の會



初刊の大小の字と云ふ  
用はる初刊の字を  
法一

○十九の字は  
此の字は  
是の字は  
此の字は

○十八の字は  
又月毎の字は  
是の字は  
是の字は

○十六の字は  
又月毎の字は  
是の字は  
是の字は

○十五の字は  
又月毎の字は  
是の字は  
是の字は

○十四の字は  
又月毎の字は  
是の字は  
是の字は

白鬼の字は  
千時庵意亭年  
山口元智雅大

右元智の字は

永井芳水判











